

グループ③	ファシリテーター:中村直子(茨城県西部メディカルセンター)
テーマ	教育について悩んでいることなど
参加者	3名
	手術室経験年数:4~20年 役職:主任、看護師主幹など
内容	<p>&lt;教育について悩んでいることなど&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務を遂行するために学習は必要であるが、勤務時間外での学習を強制できないのでどのように学習してもらっているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→手術室看護師として必要な知識や技術、具体的に提示することで各自が自主的に学習できるよう意識付けしている。</li> </ul> </li> <li>・病棟へのリリーフ体制があり、病棟や救急外来などで一般的な看護技術の実践経験が少ない手術室看護師は苦勞している。手術看護以外の看護技術をどのように指導しているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→他部署へのリリーフは手術室の先輩方と共に行ける機会も少ないため、各病棟のスタッフに指導をお願いしたいところであるが、そもそもリリーフのために行っているため病棟スタッフに指導を依頼することも難しい。手術室スタッフがリリーフ時に行った業務や手技などで共有が必要なものを手術室内で共有している。</li> </ul> </li> <li>・病棟・外来看護師の手術室業務に対する理解がなく、「手術が終われば手術室看護師は手が空いている」と思われがちだが、実際は中材業務など様々な業務がある。他部署のスタッフに対して、手術室の業務を理解してもらうための取り組みはしているのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→他部署のスタッフにも手術室の業務を知ってもらえるようにアピールすることが必要。同時に手術室スタッフも病棟業務に興味を持ち、業務内容を理解できるよう教育する必要もあるのではないか。</li> </ul> </li> <li>・手術室に配属になった新人や、希望ではなく手術室異動となった異動者の場合、実習や病棟での看護業務とのギャップに悩むスタッフも多い。どのように指導していけばよいか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→スタッフそれぞれに看護感があり、病棟や実習での関わり・教育機関での学習内容が、手術室では活用できないと感じている場合も多いため、病棟と手術室看護の連携や、手術看護のやりがいを見つけれられるよう関わるとよいのではないかと。</li> </ul> </li> </ul>
まとめ	<p>・グループメンバーが管理者の方々であり、管理者の目線から各施設での状況や悩みなどを共有することができました。新入職者や異動者だけでなく、スタッフ全体の教育についても課題があることを認識できました。また、手術室内だけでなく、病棟・外来との相互理解を深めるために手術室からも情報を発信することが必要です。手術室スタッフが看護師として成長できるような教育体制が必要であることもグループ内で共有できたことが私自身としても大変学びになりました。グループの皆様、ありがとうございました。</p>